

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成30年10月～12月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成31年1月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 30 年 10～12 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 148 企業

2. 調査対象期間

平成 30 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 30 年 11 月 15 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	32
建 設 業	26
小 売 業	44
サービス業	46
合 計	148

5. そ の 他

本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(平成 30 年 10 月～12 月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△0.9 ポイントの若干の悪化で△30.6(前期△29.7)となった。産業別にみると、製造業が△18.7(前期△18.7)と横ばい、建設業で△30.8(前期△26.9)と△3.9 ポイント悪化、小売業で△51.2(前期△47.8)と△3.4 ポイント悪化、サービス業では△19.6(前期△21.8)と2.2 ポイントの改善となった。

来期見通しについては、産業全体(全産業)としては改善の見通しである。産業別にみると、製造業については悪化の見通し、建設業、小売業については改善の見通し、サービス業については若干の改善見通しである。

表一1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 29.7	△ 30.6	△ 27.9
製造業	△ 18.7	△ 18.7	△ 25.0
建設業	△ 26.9	△ 30.8	△ 19.3
小売業	△ 47.8	△ 51.2	△ 44.2
サービス業	△ 21.8	△ 19.6	△ 19.5

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業では 18.7%で前期比 3.1 ポイント増加、建設業では 7.7%で前期比△3.8 ポイント減少、小売業では 4.5%と前期比 2.2 ポイント増加、サービス業でも 20.0%と前期比 4.4 ポイント増加した。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業では減少、建設業、小売業で増加、サービス業では減少となっている。

表一2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	15.6	18.7	12.5
建設業	11.5	7.7	19.2
小売業	2.3	4.5	6.8
サービス業	15.6	20.0	10.9

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2018年（H30年）12月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2018年9月調査）と比較して、製造業が前期と同じプラス14、非製造業は1ポイント上昇のプラス11だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業・サービス業で改善、建設業で悪化、小売業で横ばいとなった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業では全国以下、東北以上、建設業・小売業では全国・東北以下、サービス業では全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 10.8	△ 10.9	△ 23.1	△ 20.5	△ 21.9	△ 18.8
建 設 業	△ 9.7	△ 4.0	△ 26.4	△ 20.0	△ 34.7	△ 53.8
小 売 業	△ 30.9	△ 32.2	△ 34.4	△ 43.7	△ 52.3	△ 52.3
サービス業	△ 20.5	△ 21.1	△ 20.4	△ 28.8	△ 26.1	△ 19.6

③ 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業で横ばい、建設業で改善、小売業・サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業では全国以下、東北以上、建設業・小売業・サービス業では全国・東北以下であった。

表－4 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 13.3	△ 14.6	△ 26.1	△ 24.4	△ 18.7	△ 18.7
建 設 業	△ 14.3	△ 9.9	△ 19.6	△ 20.0	△ 30.8	△ 23.1
小 売 業	△ 31.7	△ 32.5	△ 36.9	△ 43.7	△ 45.5	△ 58.2
サービス業	△ 22.6	△ 23.9	△ 26.1	△ 30.5	△ 28.9	△ 33.4

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（H31年1月～3月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で0.1ポイントの若干の改善、建設業で11.5ポイントの改善、小売業で9.1ポイントの改善、サービス業では横ばいの見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で横ばい、建設業で3.9ポイントの改善、小売業で4.7ポイントの改善、サービス業でも6.7ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で改善、宮城で若干の改善、採算は全国で改善、宮城で横ばいの見通しとなった。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算は全国で悪化、宮城で改善の見通しとなった。小売業では売上は全国で若干の悪化、宮城で改善の見通し、採算では全国・宮城で改善の見通しとなった。サービス業では売上では全国で改善、宮城で横ばいの見通し、採算では全国で改善、宮城でも改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 10.9	△ 6.9	△ 18.8	△ 18.7
建 設 業	△ 4.0	△ 9.7	△ 53.8	△ 42.3
小 売 業	△ 32.2	△ 32.3	△ 52.3	△ 43.2
サービス業	△ 21.1	△ 17.8	△ 19.6	△ 19.6

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 14.6	△ 13.4	△ 18.7	△ 18.7
建 設 業	△ 9.9	△ 11.5	△ 23.1	△ 19.2
小 売 業	△ 32.5	△ 29.9	△ 58.2	△ 53.5
サービス業	△ 23.9	△ 21.4	△ 33.4	△ 26.7

2. 県下産業別の景況

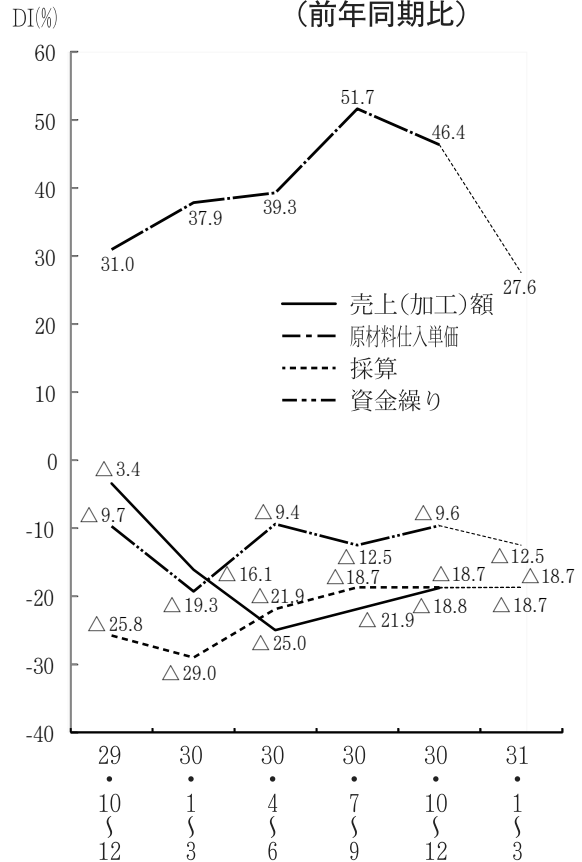
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△18.8（前期△21.9）となり3.1ポイント前期より改善、採算D Iは今期△18.7（前期△18.7）で横ばい、資金繰りD Iは今期△9.6（前期△12.5）で2.9ポイント改善した。

原材料仕入単価は今期46.4（前期51.7）と△5.3ポイント下落した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



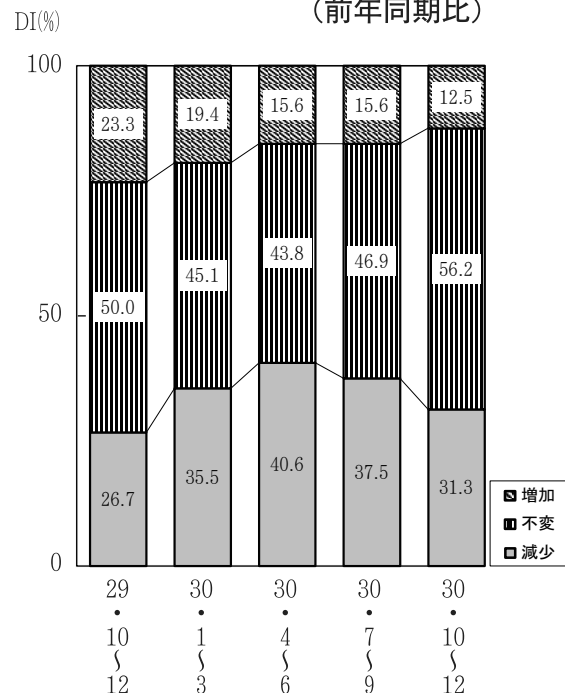
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の12.5%（前期15.6%）と△3.1ポイント減少、「減少」と回答した企業も31.3%（前期37.5%）と△6.2ポイント減少した。

その結果、売上（加工）額D Iは△18.8（前期△21.9）となり前期比3.1ポイント改善した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

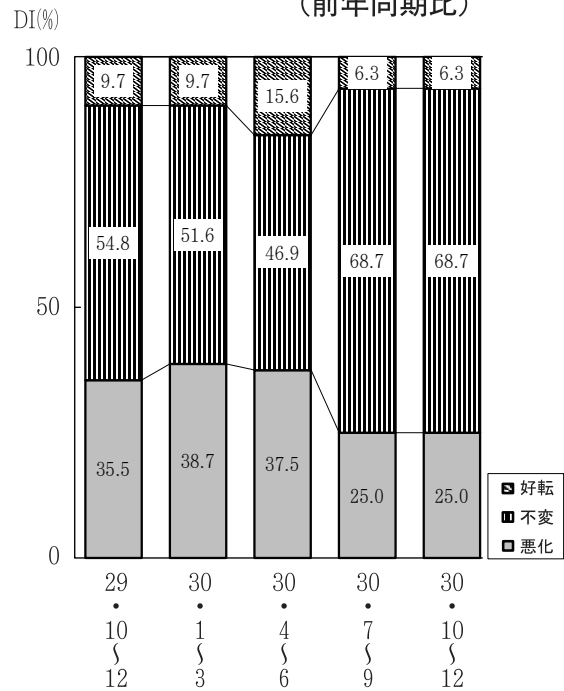


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 6.3% (前期 6.3%) で横ばい、「悪化」と回答した企業も 25.0% (前期 25.0%) で横ばいであった。

その結果、採算 D I は△18.7 (前期△18.7) で前期と同じであった。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



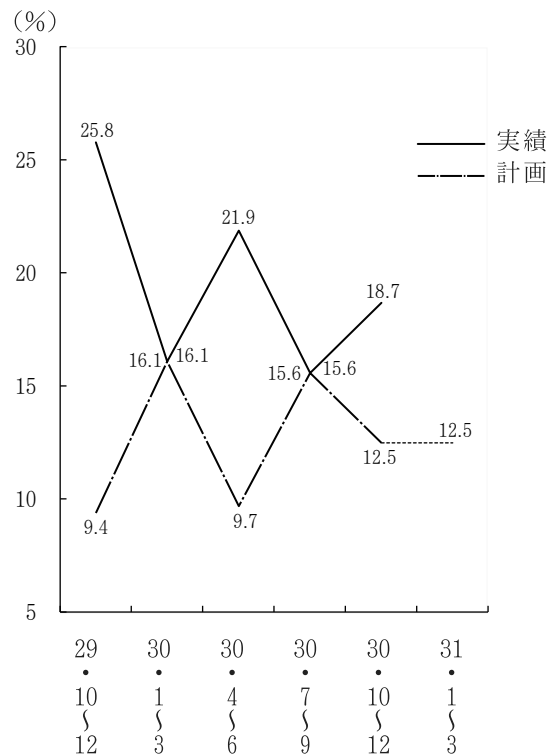
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 18.7% (前期 15.6%) で、前期と比べ 3.1 ポイント増加した。

その設備内容は、土地、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.5% で、その設備内容は、工場建物、生産設備、OA機器となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

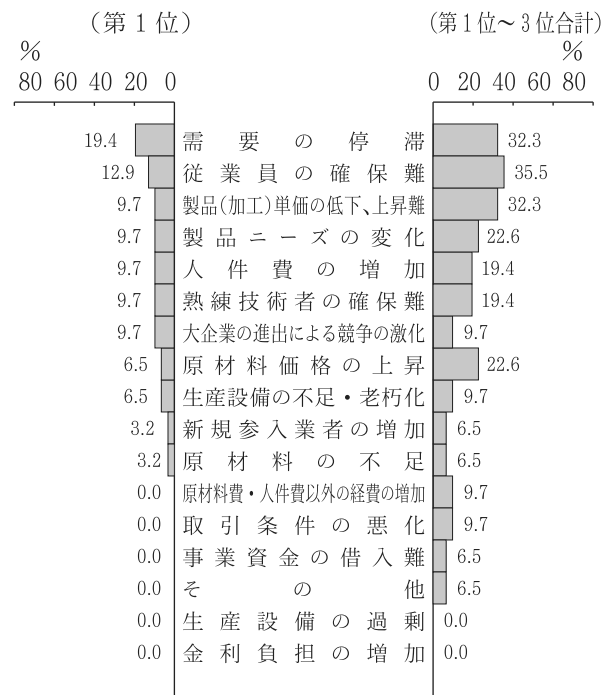


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で19.4%、次いで「従業員の確保難」が12.9%、「製品(加工)単価の低下、上昇難」、「製品ニーズの変化」、「人件費の増加」、「熟練技術者の確保難」、「大企業の進出による競争の激化」が同率9.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「従業員の確保難」が35.5%(複数回答計、以下同じ)で最上位、次いで「需要の停滞」、「製品(加工)単価の低下、上昇難」が同率32.3%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



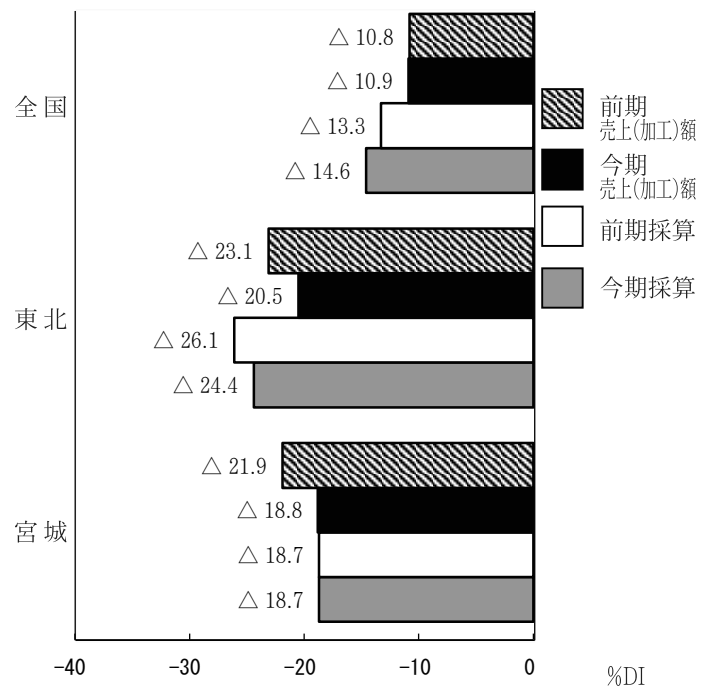
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DIでは全国で若干の悪化、東北・宮城で改善した。その改善度は宮城、東北の順であった。

採算DIの比較では全国で悪化、東北で改善、宮城で横ばいであった。

本県回答事業者からは「新工場操業開始に向けた設備投資に期待」(金属加工業)や、「技術者不足や技術面のデジタル化の進行への対応が困難」(屋外広告製造業)などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



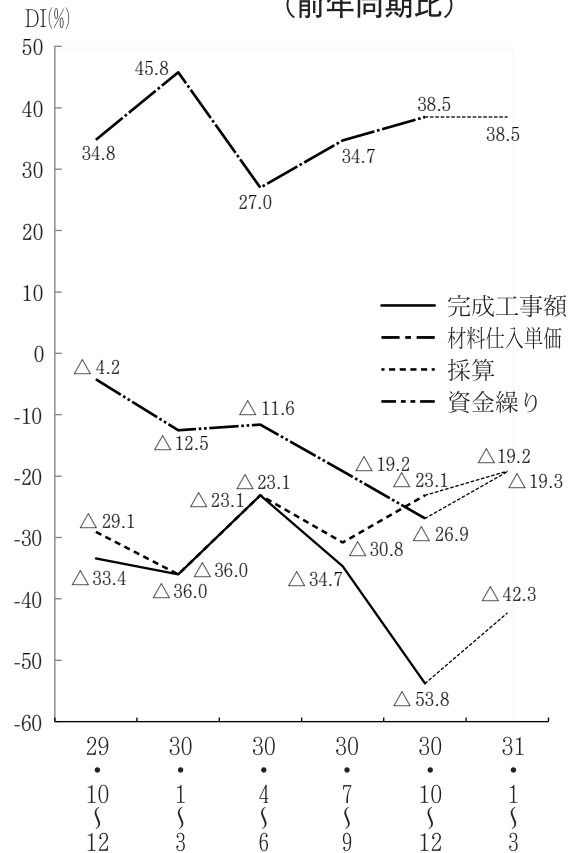
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△53.8（前期△34.7）と前期より△19.1ポイント悪化、採算D Iは今期△23.1（前期△30.8）で7.7ポイント改善、資金繰りD Iは今期△26.9（前期△19.2）と△7.7ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 38.5（前期 34.7）と前期より 3.8ポイント上昇した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



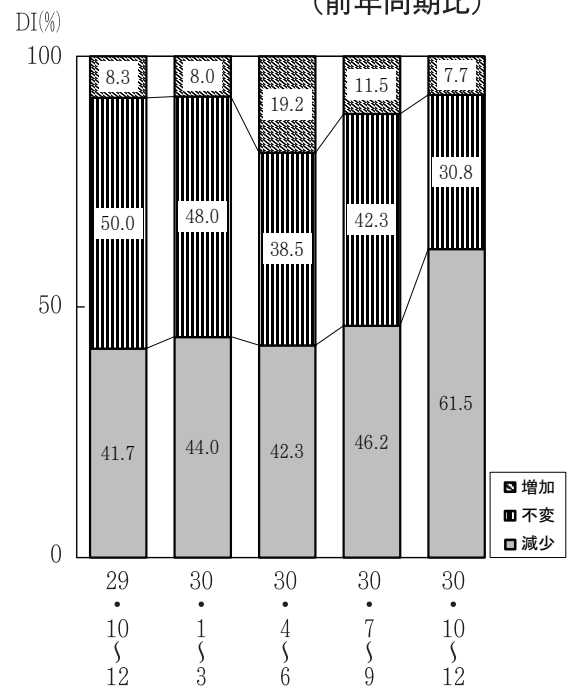
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 7.7%（前期 11.5%）で△3.8ポイント減少、「減少」と回答した企業は 61.5%（前期 46.2%）で 15.3ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△53.8（前期△34.7）と△19.1ポイント前期より悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

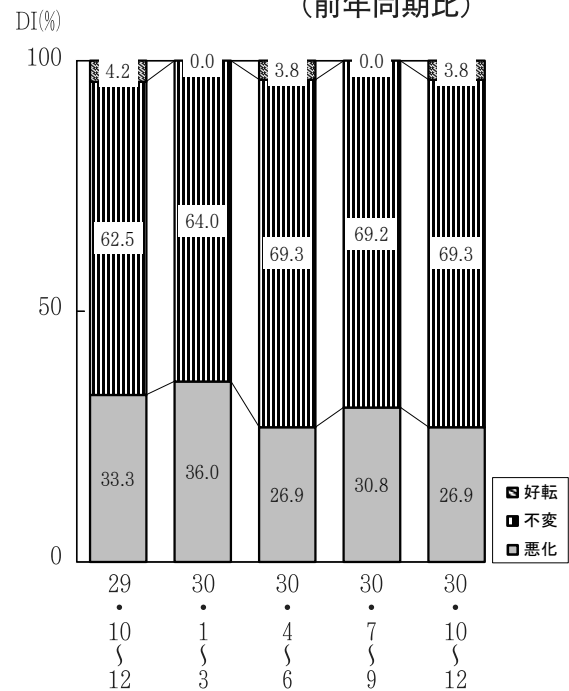


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 3.8% (前期 0.0%) で 3.8 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の 26.9% (前期 30.8%) で△3.9 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△23.1 (前期△30.8) と 7.7 ポイント改善した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



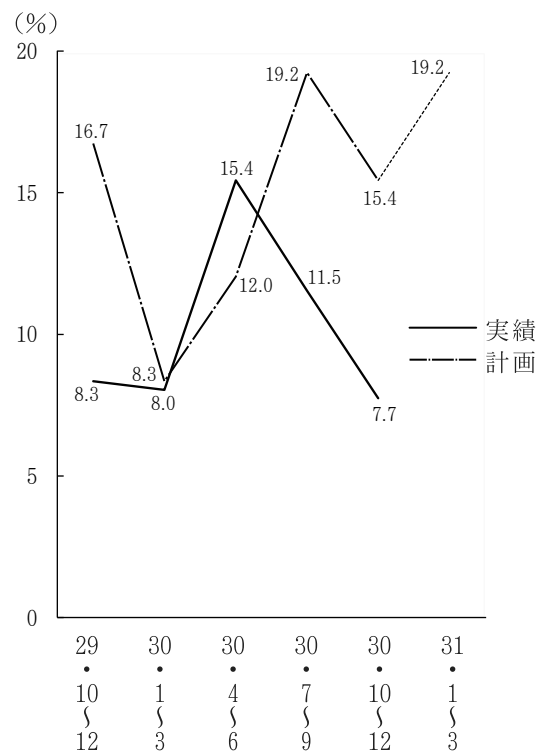
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 7.7% (前期 11.5%) で、前期より△3.8 ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、車両・運搬具、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 19.2% で、その設備内容は、建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

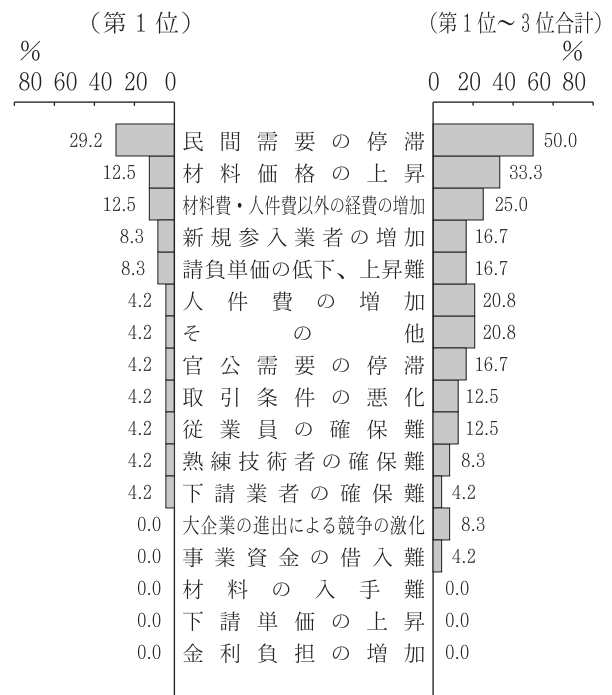


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」が29.2%で、次いで「材料価格の上昇」と「材料費・人件費以外の経費の増加」が同率12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「民間需要の停滞」が50.0%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「材料価格の上昇」が33.3%、「材料費・人件費以外の経費の増加」が25.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D I は全国・東北で改善、宮城で悪化となった。

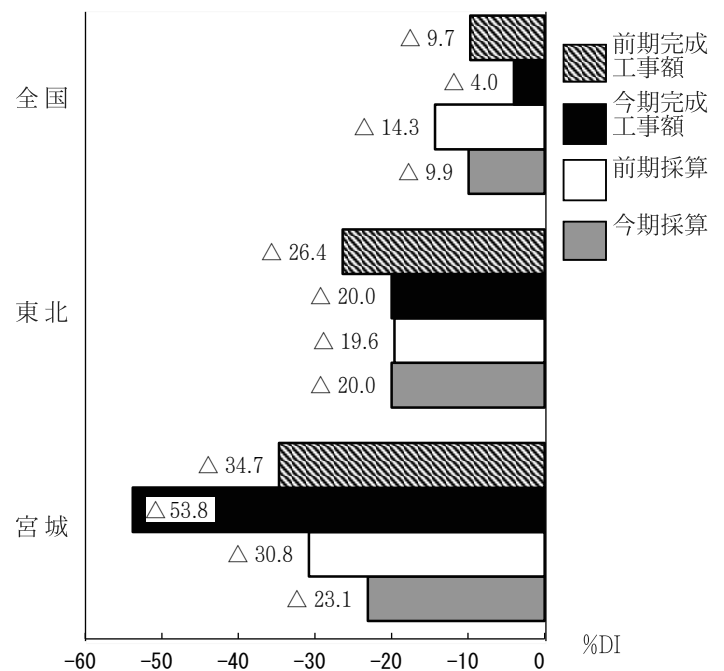
その改善度は東北、全国の順であった。

採算D I の比較では、全国・宮城で改善、東北で若干悪化した。

その改善度は宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは「新築工事が減少しているなかで、リフォーム等で仕事を繋げている」や「新規参入者の増加により受注が減少」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



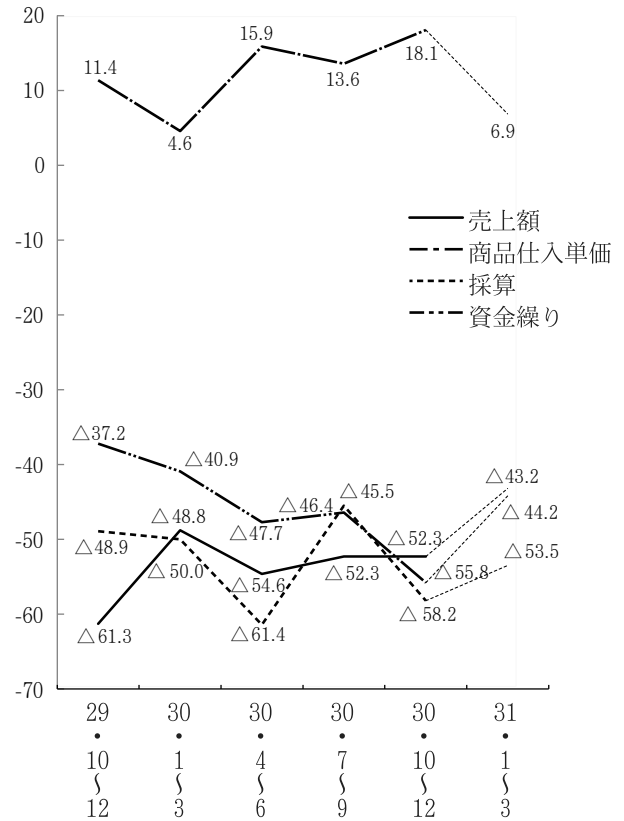
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△52.3（前期△52.3）と前期と同じ横ばい、採算D Iは今期△58.2（前期△45.5）で△12.7ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△55.8（前期△46.4）で△9.4ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは今期 18.1（前期 13.6）となり、4.5ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



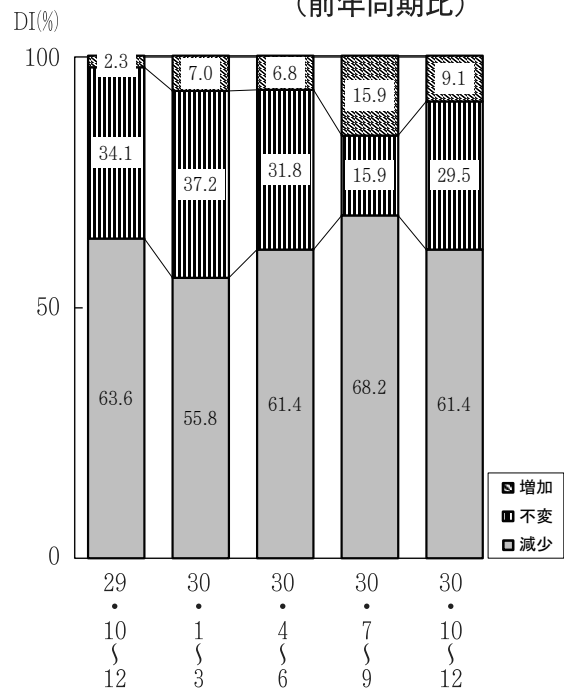
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の9.1%（前期15.9%）で△6.8ポイント減少、「減少」の回答も、今期は全体の61.4%（前期68.2%）で△6.8ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△52.3（前期△52.3）と前期と同じ横ばいであった。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

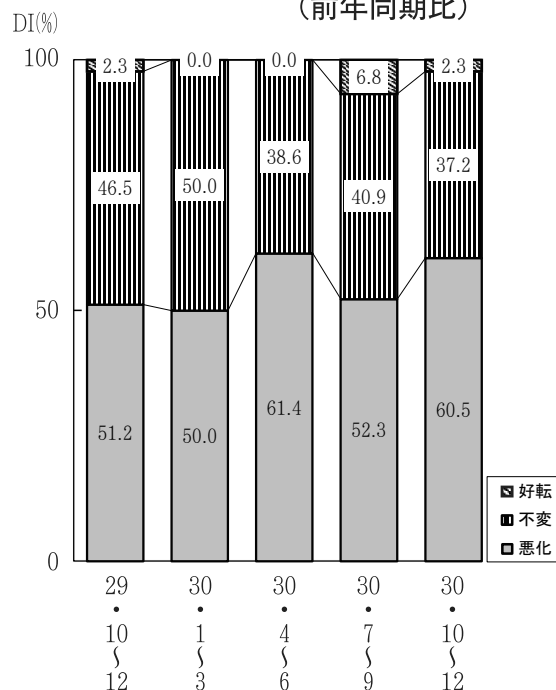


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期6.8%）と△4.5ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の60.5%（前期52.3%）で8.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△58.2（前期△45.5）で、前期より△12.7ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



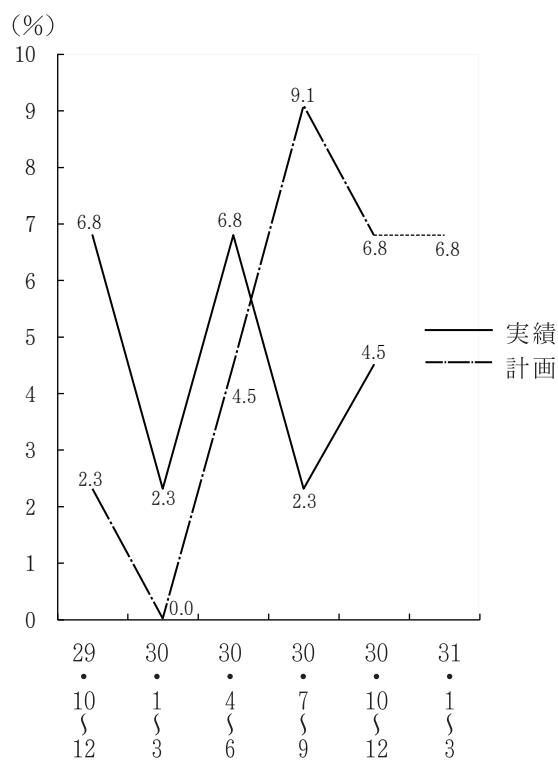
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の4.5%（前期2.3%）で、前期より2.2ポイント増加した。

その設備内容は、販売設備、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の6.8%で、その設備内容は、店舗、付帯施設、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

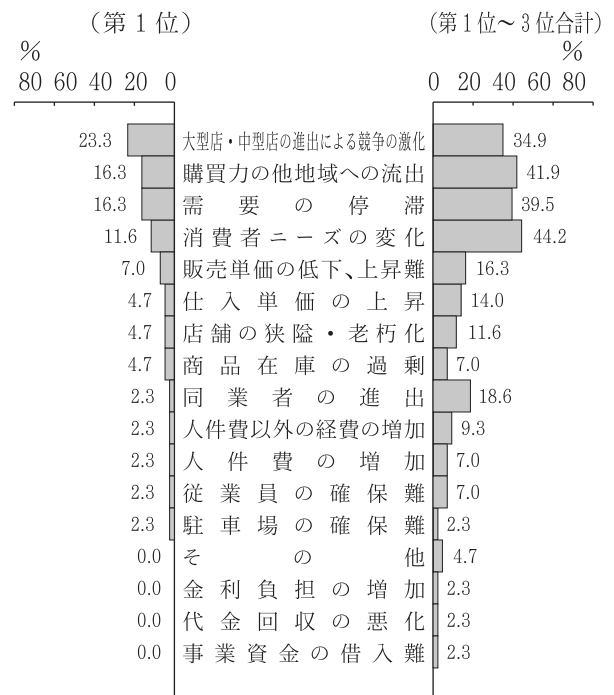


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で23.3%、次いで「購買力の他地域への流出」と「需要の停滞」が同率16.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「消費者ニーズの変化」が44.2%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「購買力の他地域への流出」が41.9%、「需要の停滞」が39.5%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国・東北で悪化、宮城で横ばいであった。

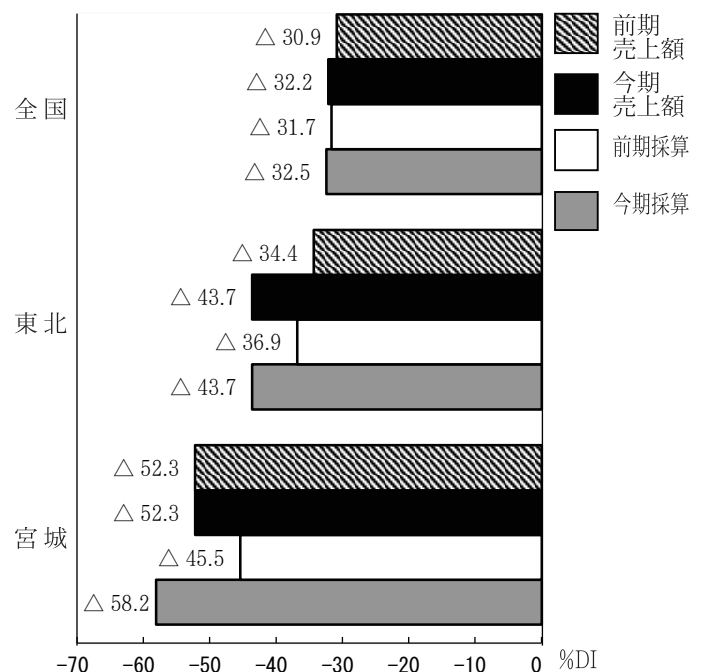
その悪化度は東北・全国の順であった。

採算DIでは全国で若干の悪化、東北・宮城で悪化した。

その悪化度は宮城・東北の順であった。

本県回答事業所から「飲食店の需要が停滞している。今後の忘年会等の需要増に期待」(食料品販売)や「法人化や事業承継を検討中」(金物販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



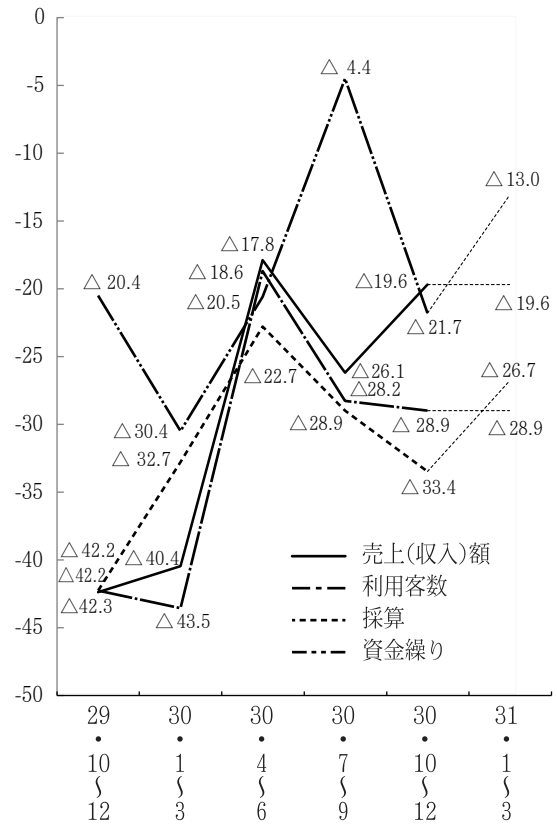
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△19.6（前期△26.1）で6.5ポイント改善、採算D Iは今期△33.4（前期△28.9）で△4.5ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△21.7（前期△4.4）で△17.3ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△28.9（前期△28.2）で△0.7ポイント下落した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



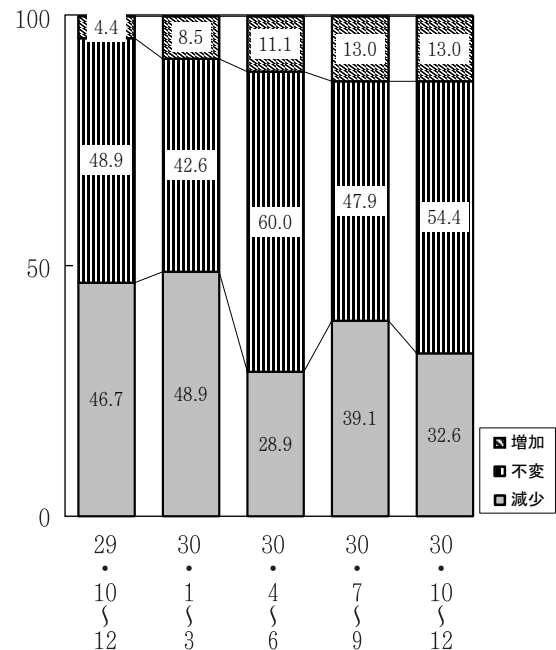
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の13.0%（前期13.0%）で横ばい、「減少」の回答は今期32.6%（前期39.1%）で△6.5ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△19.6（前期△26.1）で前期より6.5ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

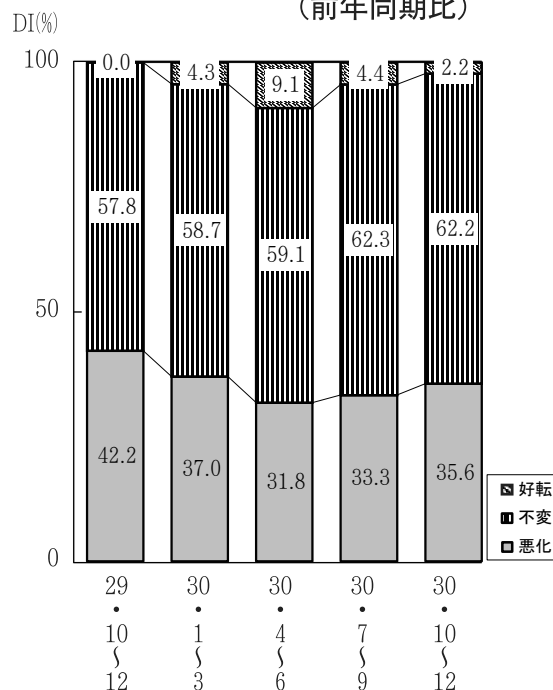


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.2%（前期4.4%）で△2.2ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期35.6%（前期33.3%）と2.3ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△33.4（前期△28.9）で前期より△4.5ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



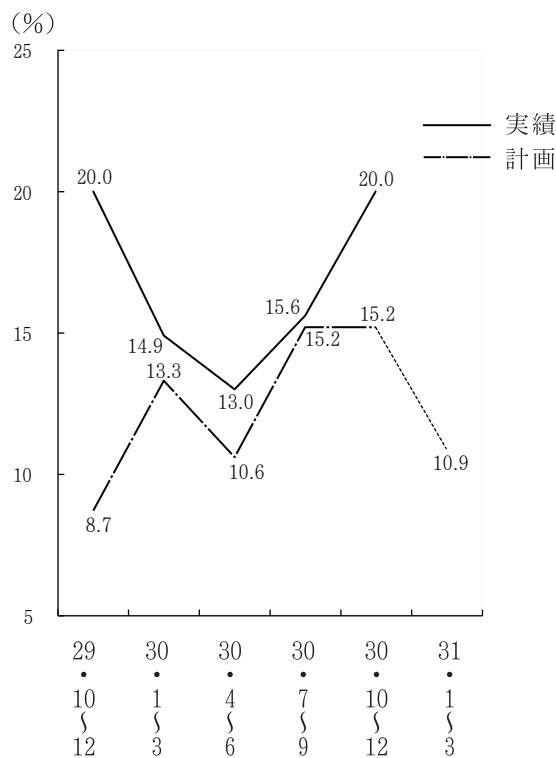
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の20.0%（前期15.6%）で、前期より4.4ポイント増加した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の10.9%であり、その設備内容は、建物、サービス、付帯施設、福利厚生施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

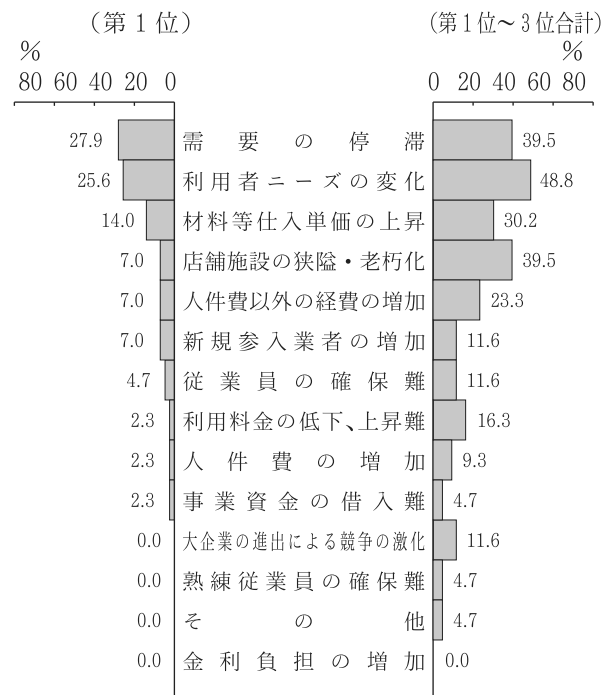


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」で27.9%、次いで「利用者ニーズの変化」が25.6%、「材料等仕入単価の上昇」が14.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「利用者ニーズの変化」が48.8%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」と「店舗施設の狭隘・老朽化」が同率39.5%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城で改善した。

採算DIでは全区分で悪化となった。

その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「新たに設備と従業員を増やしたため、作業形態の変更に時間を要すると予想」(飲食業)や「燃料(軽油)代の高騰で厳しい状況」(運送業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

